

4 取組の将来像

長年にわたり施設を維持していくためには、改修や改築などに多額の更新費用が必要となります。しかし、少子高齢化による生産年齢人口の減少に伴い、今後、区民税収入が減少していく一方で、社会保障関係の経費はさらに増加していくことが想定され、施設の改修や改築に多くの予算を振り向けることは、現実的に困難です。

たとえ、現在と同じ施設の数維持することができないとしても、工夫をすることで必要なサービスを維持していくことは可能です。その手法の一つは、第一期計画にも記されているとおり、施設の複合化・多機能化を促進していくことです。

例えば、児童館の持つ学童クラブや小学生の放課後等の居場所の機能を小学校内へ移転させ、小学校の複合化を図ります。これにより、児童の安全を確保するとともに、小学校の施設・スペースを活用し、より充実した環境で機能・サービスを展開することができます。

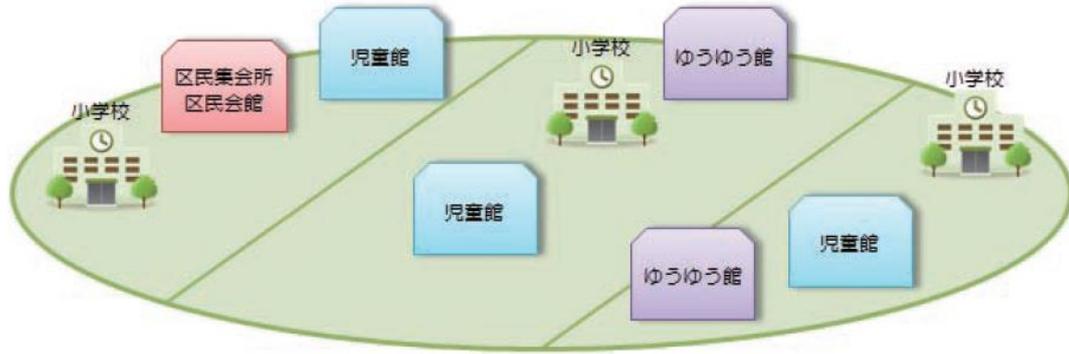
また、特定の年齢層を対象にした施設であるゆうゆう館及び児童館（子ども・子育てプラザに転用する児童館を除く）は、区民集会所・区民会館と合わせて、乳幼児親子を含む子どもから高齢者まで、多世代が利用できる地域コミュニティ施設に再編します。このように、多機能化を図ることにより、サービスの質を維持しながら施設の数や面積と維持管理にかかる経費を削減することができます。

また、複合化・多機能化を行うことで生み出された施設・用地については、その時々の方針に合わせるために転用をしたり、売却や貸付をするなど、有効に活用していきます。

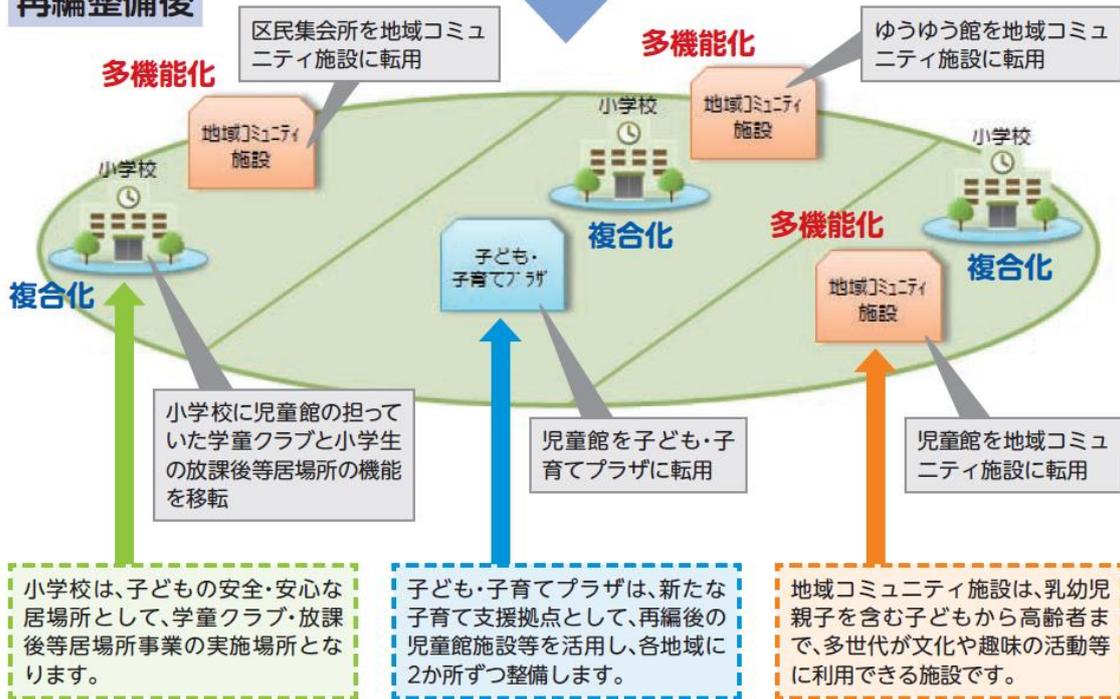
●施設再編による各地域の施設の変化（イメージ）

区内の地域の一部を仮定して、再編整備の前後で施設がどのように変わるのか、一例を示します。

再編整備前



再編整備後



- ・施設の数や面積を減らし、施設を維持管理するための経費を削減します。
- ・廃止した施設・用地は、他施設への転用のほか、売却・貸付をするなど、有効活用を図ります。
- ・複合化・多機能化により、各地域におけるサービスの提供は継続します。

※子ども・子育てプラザについては、P27を参照。

※地域コミュニティ施設の再編整備については、P66を参照。

※児童館の再編整備については、P67を参照。

(5) 児童館の再編整備について

児童館を再編整備するにあたっては、小学校内や子ども・子育てプラザ、地域コミュニティ施設などに機能を移転させつつ、地域バランスなどに配慮して現在の機能を継承・発展させていきます。

小学生の放課後等の居場所と学童クラブの機能を小学校内に移設したうえで、乳幼児親子の居場所を、7地域に2箇所ずつ整備する「子ども・子育てプラザ」と地域コミュニティ施設などに設置します。乳幼児親子の居場所は、「子ども・子育てプラザ」を中心として、地域コミュニティ施設などの乳幼児親子の居場所となるスペースでもプログラムや講座などを実施していきます。

また、中・高校生の新たな居場所は、第一次実施プランでは、移転後の永福体育館跡地や統合後の杉並第八小学校跡地で検討している、地域コミュニティ施設と図書館などの複合施設のスペース活用を視野に検討を進めます。

